

注意喚起

イネカメムシ対策情報について

昨年九州北部での被害報告が多かったイネカメムシがJA北九管内でも確認されました。イネカメムシについては昨年度から被害発生が見られ、特別な警戒が必要な害虫となっております。

記載しておりますイネカメムシの生態及び防除方法や有効薬剤をご確認いただき、適切な防除をよろしく願いいたします。

【イネカメムシの注意すべきポイントと対策】

1. 加害時期が通常のカメムシよりも早い

カメムシよりも早い

→通常のカメムシは主に穂揃い期以降に加害しますが、イネカメムシはこれに加え出穂直後にも加害を行い、斑点米や不稔による収量・等級低下の原因となります。

そのため、コシヒカリ・夢つくしは穂揃い期に1回、元気つくし等の出穂の遅い稲は出穂直前と穂揃い期の合計2回は少なくとも防除を行きましょう。

2. 日中は株元に潜んでいる

→日中、圃場を確認してもイネカメムシの姿が見えないことがあります。これは、イネカメムシが日中、株元に身を潜める性質があるからです。

本田で防除を行う際は、薬剤を株元にいるカメムシに届くように散布しましょう。

【イネカメムシの姿】



【カメムシによる斑点米】



【防除時期】

早期コシヒカリ ・夢つくし 穂揃い期 (早期コシヒカリ : 7月中下旬) (早期夢つくし : 7月中下旬) (普通期夢つくし : 8月中下旬)	元気つくし 出穂期と穂揃い期 (8月下旬～9月上旬)
1回	2回

【株元への散布】



3. カメムシに登録のある薬剤例

薬剤名称	希釈倍率・使用量	散布液量(ℓ/10a)	※使用回数	使用時期
アルバリン顆粒水溶剤	2000倍	60～150	3回	収穫7日前まで
アルバリン粉剤DL	3kg/10a	—	3回	収穫7日前まで
キラップフロアブル	1000～2000倍	60～200	2回	収穫14日前まで
キラップ粉剤DL	3～4kg/10a	—	2回	収穫14日前まで

※農薬ご使用の際は、農薬ラベルの確認をお願いします。

【お問合せ・ご相談は、お近くの地区営農センターへお願いします。】